

保健行政について質問します

2011年3月11日の東日本大震災の福島第一原発事故から、約1年半が経過しました。原発事故は収束しておらず、いまだに原子炉の水漏れなどで高レベルの放射線を出し続けています。

今、全国でも放射能に汚染された食品が広まっており、深刻な問題となっています。例えば、福島県近海で捕れたアイナメから2万5800ベクレルの高濃度の放射性セシウムが検出された事は記憶に新しいところです。

この広島県でも、8月3日、三次市で栽培された生シイタケから、380ベクレルの放射性セシウムが検出されたと報道がありました。これは国が示した基準値100ベクレルの3.8倍という高い数値です。

先日の民生福祉委員会で、三次市の放射能に汚染された生シイタケが福山市のある店舗から、58パック流通された事が明らかになりました。

放射能汚染された食品が、市内に流通しているこの事実に関して、市長はどのように受け止めておられるのかお考えをお示してください。

6月の本会議では、「低線量・慢性被曝は、DNAはほとんど回復するため、医学的にはほとんど影響はない。」との見解が示されました。

しかし、放射線防護学の安齋育郎氏は「自然放射線も人工放射線でも被曝は同じ。出来るだけ被曝を避ける事が大事である。」と説明しています。

放射能から子どもを守る会」という書籍によると、「人類は 700 万年という進化の過程で、自然放射線量に適応し、自然界の放射性物質などを体内で認知して、排除するというメカニズムを培ってきた。しかし、人工放射性物質は、人体にとってどれくらい影響があるか、まだ明確には解明されていません」と書いてあります。

そして、著名な内部被曝研究者の、矢ヶ崎克馬琉球大学名誉教授によると、「低線量での外部被曝ではほとんど問題にならない、 α 線や β 線による被曝が深刻になる。あらゆる放射性核種が、体内のある場所に集中し、体内にあるかぎり被曝し続ける。また、体の細胞の至近距離から、たくさんの放射線があたり、DNAが切断されます。その切断されたDNAが再結合をする。この時に、異常再結合がおき、癌や白血病など引き起こす。そのため内部被曝は、人体に大きなダメージを与え、晩発性障害の危険が大きい」と述べています。そのため、出来るだけ被曝を減らすことが重要となってきました。

今年の7月26日に市内に住むお母さんらから、「子ども達を放射性物質の危険から守るための署名」が約2300筆提出されました。

要望項目は、①内部被曝ゼロを目指して、放射能汚染の可能性のある食材を使用しないこと②給食の放射能測定を実施し公表すること③食材の産地をホームページや献立表で公開し、お弁当の持参を許可すること、とあります。

これは「子ども達を被曝させたくない」というお母さんの切実な思いで、この署名の重みはとても大きいものです。このお母さん方の声に市長は応えるべきではありませんか。市長のご所見をお尋ねします。

これまで福山市は、「万が一緊急な検査が必要な場合には、民間の検査機関を活用して対応をする」と表明しています。

万全な検査体制でのぞみ、子ども達の健康を守ること、そしてお母さん方の不安の解消のためにも、ぜひ保育所・学校の給食の食品検査をする事を求めますが、市長のご所見を伺います。